

令和3年度 江戸川区立第四葛西小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	○豊かに育つ四葛西っ子 ・元気な子 ・やさしい子 ・よく考える子 ・やりぬく子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○家庭・地域に開き、共に歩む学校 ○友達と共に学級、学年、学校の文化を創り、発展させていく児童 ○組織的に教育活動を推進しつつ、自らの向上を図る教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> 新学習指導要領の全面実施に伴い、採択された新教科書に沿って学習を進め、教職員全体で3観点評価のための情報交換をしたり、授業改善に向けて研究したりすることができた。また、学校教育目標や学校経営方針の具現化をめざし、校務分掌組織を見直し、全教職員で推進した。 <課題> 引き続き、児童の実態および教育的課題を的確に把握し、新学習指導要領を踏まえて具体的な活動を設定していく必要がある。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	補習タイム・・・年間35回 全国学力調査の到達目標	放課後補習の確保と児童の基礎的な学力の向上	B	B	○補習タイムの実施 ●全国学力調査目標値到達度	B	○一人一台タブレット端末の活用により、学習の様子が分かってきた。 ・補習タイムの充実化 ・タブレット端末の効果的な活用
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実（読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等） ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	図書館の整備 読書活動への取り組み	図書館での読書活動および探究的な学習	B	B	○学校司書との連携 ●蔵書整備	B	○PTA、学校応援団とともに更なる連携を図る。 ・スーパーバイザーやPTAボランティアとの連携 ・東葛西図書館との連携の充実化
	体力の向上	・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	休み時間の全校運動遊び・・・週1回	集団運動遊びの取り組み	B	B	○パワーアップタイムの実施 ●集団運動のリエーション ○「投げる」力をつけるための工夫	B	引き続き体力向上に向けて活動を期待する。 ・パワーアップタイムの充実化
	オリパラ教育の推進	・「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組、「学校2020レガシー」の設定やオリパラコーナーの充実	実施計画書に基づく取組み・・・年間35h、パラ観戦の代替となる映像視聴	ボランティアマインドの育成 総合的な学習の時間	A	B	○アスリートを招いての出前授業 ●オリパラ観戦の中止	B	○アスリートを招いての授業継続 ○オリパラ観戦中止はやむを得ない ・アスリートを招いての授業継続
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	外国語専科の配置 ALTとの授業・・・外国語(年間70h)、外国語活動(年間35h)	児童の基礎的な学力の向上とコミュニケーション能力の向上	A	B	○イングリッシュルームの充実	B	○専科教員が担当し、授業の充実化が図れた。 ・英語教育の更なる充実化
	健全育成に向けた取組の強化	いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	研修会の実施 学期1回	実施回数および研修会への参加	B	B	○週1回の情報共有の充実化 ●組織的な対応力	B	○外部講師を招いての講和を希望する。 ・組織的な対応の拡大
特別支援教育の充実	特別支援教育の推進	・校内委員会の活性化を図ることによる指導・支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	特別支援委員会 毎月 研修会実施 学期1回	実施回数および研修会への参加	A	B	○巡回指導教員との情報交換 ●SCや心理士との連携	B	○コロナ禍ではあるが、面談や電話などで教職員と話しあう機会が昨年よりも増え、ホームページなどで学校の様子も伝わりやすくなってきた。 ・学校からの情報発信の努力 ・スクールカウンセラーや心理士との更なる連携
教員の資質向上	教員研修の充実	・学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修	校内研修・・・年間3回 LINES授業支援・・・各学級1回	ICTによる授業実践	A	A	○授業支援の実施とICT研修 ●ICTを活用した授業改善	A	端末の活用で、コロナ禍での授業の様子が連絡が家庭に伝わりやすくなった。 ・授業の効果的な活用、オンライン授業の対応
	教科担任制の先行実施	江戸川区教育課題実践推進校として教科担任制に取り組み、授業の充実を図る。	公開授業、発表・・・年間1回 校内研究・・・年間5回	研究授業、公開授業への取り組み	A	A	○教員の学年担任としての意識向上 ●時間割変更の困難さ	A	○教科担任制の導入で授業の工夫が高まり、授業の質の向上に繋がった。 ・更なる授業の質の向上を目指す。 ・働き方改革への効果
特色ある教育の展開	グリーンアドベンチャー	様々な樹木とのかかわりを通しての異学年集団交流	異学年集団・・・年間6回 学年・・・年間2回	異学年交流による活動	A	A	○計画的な実施と運営 ●異学年交流の充実	A	自然学習とい学年交流の継続の更なる期待 ・樹木の剪定や管理の充実化
	地域連携教育の推進	地域を愛する心、伝統を受け継ぐ心をもった「えどがわ大好き」な児童の育成	海苔すき体験(第3学年) 米づくり等の体験(第5学年)	学年の総合的な学習の時間	A	B	○体験的な活動の充実化 ●コロナ対策の柔軟な対応	B	「みんなの田んぼ」での稲刈りが実施できるようになり、少しずつ活動ができるようになった。 ・地域関係者との更なる連携